

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530639

研究課題名(和文) 日韓の国際移動におけるローカルネットワークとコミュニティの生成と変容に関する研究

研究課題名(英文) An empirical study about the Japan-Korea international movement focusing on generation and transformation of a local network and the community

研究代表者

伊地知 紀子 (IJICHI, NORIKO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40332829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀末以降現在まで継続する日韓の人口移動におけるローカル・ネットワーク、さらに移動先での新たな共同性の生成・変容・再編プロセスを明らかにすることによって、グローバル化のなかで再編されるローカリティの可能性を探求するための基礎的データの収集した。韓国・済州島と日本間の人口移動、済州島とのネットワークが100年を越えて維持されている大阪を中心とした日本各地への移動の時代背景や経路、ネットワーク、移動先での生活文化を調査し、移動を可能にする生活論理を析出することを通して、経済や政治の論理では捉えきれない東アジアにおける国際移動分析への今後の課題と展望を見いだすことができた。

研究成果の概要(英文)：This study verified local network in the Japan-Korea population movement which has continued until now after the end of 19th century, and the process to create, change, and reconstruct new community after their move. By these works, we collected basic data to find possibility of the locality that is reorganized in globalization. We researched a population movement between Jeju Island and Japan, background of the movement, routes, network, and the life culture in various parts of Japan, mainly Osaka. So we got some findings about everyday life theory which makes possible the movement different from economical and political theory. Through this study, we found new subjects and views for analysis about the global movement in the East Asia.

研究分野：社会科学

キーワード：在日 済州島 ローカル・ネットワーク 国際移動 生活論理

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、朝鮮半島と日本間において、19世紀末から現在まで移動が継続している済州島出身者を対象とし、人びとの移動を維持してきたローカル・ネットワークの生成と変容過程を明らかにするものである。従来の研究では、済州島出身者は在日コリアン研究の一部として対象とされてきた。在日コリアンを含めた朝鮮半島と日本間における移動の研究は、近年その対象を広げ、「脱北者」といわれる北朝鮮を出る人びと、国際結婚のケースあるいはニュー・カマーについてケース・スタディが蓄積されている。しかし、こうした調査研究は断片的なものに留まる傾向にあり、人びとの移動を生み出す歴史的・生活文化的背景への視点が抜け落ちているという限界がある。こうした限界は、既存の在日コリアン研究も抱えてきた。なぜなら、植民地期に渡日し、解放後も帰郷せず日本に留まった約60万人を在日コリアンと看做すことが前提とされてきたからである。

こうした限界を生み出した要因として、日本と朝鮮半島の関係をベースとして東アジア近現代史を生きてきた存在として、在日コリアンを捉えてこなかったことがあげられる。実際、在日コリアン一人ひとりの軌跡を辿ると、渡日時期は解放で途切れることなく多様であり、移動自体も韓半島から日本へと一方向なのではなく往来もある。もちろん、既存研究において特に解放直後の状況に関する資料的制約があったことは事実であり、近年ようやくこの時期についての研究が始まったことは、東アジア現代史研究の観点からも重要な意味を持つ。

### 2. 研究の目的

本研究は、これまでの共同調査研究の成果から、実際、済州島からの渡日者数は解放前よりも解放後に増加していることが明らかにしてきた。さらに、こうした移動をつなげてきたのは、解放前からの同郷をベースとしたローカル・ネットワークであり、このネットワークによって移動してきた人びとは、渡日後もローカルベースのコミュニティを再編しながら経済や政治の論理では捉えきれない共同性を形成し、日本への一方向的な移動だけではなく再び済州島への移動が起きていることがみてとれた。こうした移動が日韓双方のいかなる状況のなかで生まれているのかを、済州島社会の変化からより具体的に捉えていく必要がある。移動後の日本における生活史調査については、その成果を蓄積しつつあるが、出立元の社会変化に視点を据えた研究および、出立元と出立先をリンクさせて分析する研究は、日韓双方においてほぼ皆無であり本研究はこうした空白を埋めるための基層となる研究である。

そこで、本研究において明らかにする内容は大きく2点ある。1点目は韓国・済州島でのイテンシブな集落調査による人口移動につ

いての歴史的变化の把握である。19世紀末から始まる済州島からの渡日史のなかで、人びとは同郷ネットワークを父系と母系の双方を活用しながら移動し、住居と職をえてきた。こうしたなかで同郷親睦会が形成され、解放後も同郷性を契機としたローカル・ネットワークが「密航」による移動においても活用されていた。一方、解放後の在日済州島人社会は、在日コリアン社会全体の一部として朝鮮半島分断にともなうイデオロギー状況が反映されてきたため、韓国からの渡航者の受け入れは在日する側にとってスムーズではない場合が少なくなかった。こうした在日社会の政治状況がありながらも、韓国・済州島社会からの渡日者は、解放後の済州4・3事件、そしてその後の朝鮮戦争、さらにはこれらに伴う生活難のなかでローカル・ネットワークを頼りに移動してきたのである。本研究では、こうした100年に渡る移動ネットワークの具体像を時代背景とともに明らかにしていく。

2点目はこうした移動ネットワークの複眼的に明らかにする。解放前から現在にいたる済州島からの移動は日本への一方向的な流れだけではなく、その後の往来を生み出した。人びとは往来するなかで済州島社会へモノや情報を持ち込むことにより移動理由へ影響を与えた。また、済州島からの移動の形態も韓国の民主化とともに長期から短期へと変化し、さらに政治的理由から往来できなかった日本在住の人びとの「帰郷」も始まった。こうした東アジアの歴史変化のなかでの移動形態の多様化における連続性・非連続性を明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1) 既存研究の検討：東アジアの国際移動に関する最新の文献(蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』2008)を中心とし、済州島を中心とした日韓の人口移動に関する文献資料(「研究目的」で引用した杉原達(1998)、高鮮徽(1996)および(1999)、伊地知紀子(2000)および(2007)、村上尚子(2005)、玄武岩(2007))を検討しながら、移動を生み出す生活の論理についての共通の視座を共有するために、分担者および協力者とともに研究会を開催する。

(2) 既存の生活史調査の再検討：伊地知(代表)が受けた基盤研究B(課題番号21330119)で収集した生活史調査および、高正子(分担者)が代表として韓国政府から受けた「韓国国史編纂委員会口述資料収集事業」による調査成果、成律子『オモニの海峡』(1994)などの文献に見いだせる移動の記述について分析しデータベース化する。

(3) (1)(2)を進めながら、済州島での調査対象地域を選定し予備調査を実施する。

(4) 予備調査を踏まえ、済州島での人口移動調査を実施する。方法としては、集落の構

成によって異なる。同姓の一族が多数を占める集落と複数姓によって構成されている集落では調査スタイルを変え、各戸調査と一族代表者調査を交えながら実施する。実施にあたっては、対象集落を中心とした地域について、事前に済州島出身の研究協力者による学習会を設定し、事前知識を共有する。

(5) 済州島での調査成果を中間分析し、移動先である日本各地での親族および姻族関係、親睦会や民族団体との繋がり、就業や儀礼に伴うネットワークについて検証する。

#### 4. 研究成果

(1) 日本および済州にて実施した12名へのインタビューのうち、済州島の北部中山間に位置する村では日本への渡航について家族単位で調査を実施し、移動を可能にしたローカル・ネットワークを分析した。また、日本では済州で調査した家族のうち日本に継続して滞在する人への調査を実施した。これらのうち、4名については、調査対象者に内容についての了承を得たうえで『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』へ来年度掲載した。インタビュー内容の起こしは、本研究に関心を持つ大学院生・研究者に協力を依頼した。本研究は、プライバシーの問題に関わるものであるため、必ず調査対象者に調査後の内容を確認し、公表についての許可を得たのち公表・公刊している。さらに、これまで論文として公刊した研究成果を検討し、内容を精査し補充したうえで、韓国語に翻訳し出版するために準備をおこなった。

(2) 本研究の成果について、学会発表として、海外では「大阪と「故郷」と結ぶ在日済州島人の同郷ネットワーク」と題して、台湾中央研究院近代史研究所・大阪市立大学都市文化研究センター共催国際シンポジウム「近代東亜都市的社會群體與社會網絡」(=「近代東アジア都市における社会集団とネットワーク」開催地は台湾中央研究院近代史研究所)にて、研究代表者が報告を行った。また、日韓の人口移動におけるローカル・ネットワークに関して資料収集とフィールドワークで得られた知見については、「済州島民の渡日・在日体験と血縁・地縁ネットワーク 東回泉マウルの事例から」と題して韓国青巖大学校在日コリアン研究所主催の第2回国際学術大会「在日コリアンの生活と文化」において研究分担者が発表、国内では、「境界を渡る人びと:在日済州島出身者の生活史から」と題して京都人類学会2月例会で報告し、「トランスナショナルな在外同胞生活史-渡日済州島人と中国朝鮮族を中心に」(建国大学校統一人文学研究団、立命館大学コリア研究センター、朝鮮大学校、延辺大学民族研究所共催による統一人文学世界フォーラム2014「東北アジアにおけるコリアンの民族主体性の継承と変容」)研究分担者が研究報告を行った。また、韓国済州大学校在日済州人センター主催の

国際シンポジウム「在日済州人の生活史と文化」において、研究代表者および研究分担者がこれまでの研究成果の総括的報告を行った。特に総括的報告については、主催側である在日済州人センターにおける今後の研究についての課題提起ともなり、本テーマ終了後も継続して研究交流の必要性が確認された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8件)

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(15・上) 金慶海さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』23号、225-250、6月、2015、査読無。

伊地知紀子、高正子、藤永壯「韓国・済州からの渡日史 東回泉マウル調査の事例から」『コリアン・スタディーズ』2号、pp.117-131、2014、査読有。

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(14・下)金玉来さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』22号、123-138、10月、2014、査読無。

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(14・上)金玉来さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』21号、55-74、6月、2014、査読無。

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(13・下) 夫熙錫さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』20、31-55、2月、2014、査読無。

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(13・上) 夫熙錫さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』19、151-177、10月、2013、査読無。

伊地知紀子、高正子、藤永壯、鄭雅英、皇甫佳英、高村竜平、村上尚子、福本拓、高誠晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(12・下)李性好さんへのインタビュー記録」『大阪産業大学論集 人文・社会科学編』18、159-179、6月、2013、査読無。

伊地知紀子, 高正子, 藤永壯, 鄭雅英, 皇甫佳英, 高村竜平, 村上尚子, 福本拓, 高誠  
晩「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査(12・上)李性好さんへのインタビュー記録」  
『大阪産業大学論集. 人文・社会科学編』18,  
139-157, 6月, 2013, 査読無。

〔学会発表〕(計 8件)

伊地知紀子「在日済州人の歴史と生活」『慶  
北大学校SSK多文化とダイアスポラ』慶北大学  
校SSKプロジェクト, 慶北大学校, 大邱(韓国),  
2015年11月17日(招聘講演, 韓国語)。

鄭雅英「トランスナショナルな在外同胞生  
活史 - 渡日済州島人と中国朝鮮族を中心に」  
『統一人文学世界フォーラム 2014 東北アジ  
アにおけるコリアンの民族主体性の継承と  
変容』建国大学校統一人文学研究団, 立命館  
大学コリア研究センター, 朝鮮大学校, 延辺  
大学民族研究所共催, 朝鮮大学校(東京都,  
小平市), 2014年11月29日。

伊地知紀子「在日済州人研究の課題と展望 -  
「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査」  
の事例から」『在日済州人の生活史と文化』  
第五回済州大学校在日済州人センター国際学  
術大会, 済州大学校, 済州市(韓国), 2014  
年9月18日。

伊地知紀子「境界を渡る人びと: 在日済州  
島出身者の生活史から」京都人類学会2月例  
会, 京都大学(京都府, 京都市), 2014年2月  
28日。

伊地知紀子「共生から共感へ: 多文化社会  
への第一歩 - 在日済州島出身者の生活史か  
ら考える -」連続講座「東アジアを考える」  
第 期「大阪から見る日本と朝鮮半島」  
大阪自由大学(大阪府, 大阪市), 2013年12  
月18日。

鄭雅英「済州島出身在日朝鮮人の渡航史と  
生活 - 済州島出身者の生活誌調査から」  
『吉林大学東北アジア研究院と立命館大学  
コリア研究センター学術交流協定締結記念  
合同研究会』, 吉林大学, 長春(中国), 2013  
年8月26日。

藤永壯「済州島民の渡日・在日体験と血  
縁・地縁ネットワーク 東回泉マウルの事例  
から」『第2回国際学術大会「在日コリア  
ンの生活と文化」青巖大学校在日コリアン研  
究所, 大阪教育大学天王寺キャンパス(大阪  
府, 大阪市), 2013年6月29日。

伊地知紀子「大阪と「故郷」と結ぶ在日済  
州島人の同郷ネットワーク」, 台湾中央研究  
院近代史研究所・大阪市立大学都市文化研究  
センター共催国際シンポジウム「近代東亜城  
市社会と社会ネットワーク」(=「近代東アジ

ア都市における社会集団とネットワーク」),  
台湾中央研究院近代史研究所, 台北市(台湾),  
2012年7月25日。

〔図書〕(計 3件)

伊地知紀子『  
学術者

16日本人

』

2013.12.

(=『耽羅文化学術叢書16 日本人学者が見  
た済州人の生-生活世界の創造と実践』済州大  
学校耽羅文化研究所, 景仁文化社, ソウル,  
2013年12月)

伊地知紀子「「解放」と朝鮮人の移動」蘭  
信三編『人の移動事典・日本とアジア』丸善  
出版, 68-69, 2013年11月。

伊地知紀子「

』

(=「在日済州人の移動と生活」尹龍澤・  
李昌益・津波高志編『東アジア地域間の移動  
と交流』済州大学校耽羅文化研究所・在日済  
州人センター), 296-320, 2013年2月(韓国語)。

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊地知 紀子 (IJICHI NORIKO)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号: 40332829

(2) 研究分担者

藤永 壯 (FUJINAGA TAKESHI)

大阪産業大学・人間環境学部・教授

研究者番号: 00247876

鄭 雅英 (CHONG AHYONG)

立命館大学・経営学部・准教授

研究者番号: 90434703

高 正子 (KO JEONGJA)

神戸大学・国際文化学部・講師

研究者番号: 80441418